

## ふれあいセンターや地域活動センター 使用料の無料化で地域活性化を

藤島ふれあいセンターの目的外使用料が7月から改定されました。

地区公民館が今年度、地域活動センターに移行しても、登録団体以外の住民の利用が有料のまま、「誰のための公共施設なのだ」と苦情が寄せられています。

鶴岡市は深刻な人口減少に、部局横断的に「人口減少対策総合戦略会議」を市役所庁内に6月発足させました。

人口減少対策は、住民の社会活動や地域づくりの活性化を図ることが一番大切です。

公共施設使用の有料化は、そのブレーキとなるものです。

使用料無料化を求め、地域づくりを進める運動を大いに展開しましょう。

### 市の監査から指摘

藤島ふれあいセンターの使用料について市の監査から指摘を受け、無料化が限定され、目的外使用料が7月から改定されました。

藤島ふれあいセンターは、老人福祉センターの機能を移管し、住民の「自主的活動を推進し、住民の福祉向上

と総合的な町づくりを図ることを目的」として平成13年4月に設置したもので、「使用料は無料とする」としており、設置目的以外の場合に使用料を徴収するとしています。

住民の自主的活動を限定して有料化することとは、施設の目的から逸脱します。

### 地域活動センターでも有料化

さらに、地区公民館が今年度から地域活動センターに移行し、各地区の自治振興会に指定管理しました。

無料だった地区公民館が鶴岡市に合併して有料化されましたが、コミセン化になったことから、条例上は「使用料は無料とする」となっています。

しかし、無料で使用するには登録団体か、もしくは団体の規約と会員数、活動実績を書類で報告して無料の認定を受ける必要があるなど、「これでは面倒で使えない」など批判があります。

市マイクログラスと福祉バスの使用基準も平成23年4月に厳格化され、住民の各種行事の参加に広く利用されて

きたものが利用しづらくなりました。

住民の社会活動や地域づくりにブレーキとなる有料化、厳格化は改めなければなりません。

## 加藤鉦一議員が使用料の無料化を提起 9月2日 市議会総括質問で

加藤鉦一議員 市のコミュニティセンターは条例では「使用料は無料とする」となっており、藤島地域では地区公民館が地域活動センターに移行して、登録団体や恒常的に活動するサークルなどの利用は無料だが、それ以外の市民や団体が利用しようとする有料にされている。

旧町村においては人口減少が地域存続の最大の課題となっており、営利・商業以外のすべての市民の施設利用は無料にして、住民の社会活動や地域づくりの活性化を促進することが大切と考えるがどうか。

### 地域住民で組織する団体は無料

榎本政規市長 鶴岡市のコミュニティセンターは地域住民が健康で文化的な住みよい社会をつくるためにおこなう地域活動の拠点施設として設置しているもの。

今年度から藤島地域においても広域的なコミュニティの基盤を強化するため、これまでの地区公民館を地域活動センターとして5施設を設置し、鶴岡地域のコミュニティセンターと同じ基準で運用している。

さらに今議会において、羽黒地域に地域活動センターを4施設、朝日地域にコミュニティ

センターを3施設を設置する議案を提案しており、基本的に地区公民館からの移行となっている。

使用料については、公民館など市の公共施設において、その施設の設置目的によるが、利用者及び利用目的が同じであれば、施設によって使用料が大きく変わらないよう均衡を図っており、公民館がコミュニティセンター等になったことにより、利用者の負担が大きく変わるものではないと考えている。

コミュニティセンターの使用料については、地域住民で組織する団体であれば、体育施設を除き、基本的に無料とし、より多くの地域の人々から利用いただきたいと考えている。

施設の有効利用を図る等の観点から、地域住民以外の団体にも使用料を頂戴した上で利用頂いているが、他の公共施設との均衡を図りながら、生涯学習の普及や芸術文化の振興等に配慮し、使用料の減免措置を講じている。

これらコミュニティセンター等は、地域自治組織を指定管理者としており、地域の実情に精通している指定管理者とも密に連携し、地域活動の拠点施設としての機能がより発揮されるよう、今後もこれまで同様適切な運営に努めていく。



藤島ふれあいセンター



4月に藤島地区公民館が藤島地区地域活動センターに移行した



なんて美しいんだろう  
その優雅な動きに見ほろ

水槽上部から差し込む  
光に、透明感のある姿を  
強調させながら、フワリと  
フワリと泳ぐ数千匹のミ  
スクラゲ。



数千匹の水クラゲが泳ぐ直径5mの巨大水槽



しんぶん赤旗日曜版8月24日付

### 山形・鶴岡 加茂水族館



日本海をバックにほほ笑む  
村上龍男館長

## クラゲの乱舞 世界一

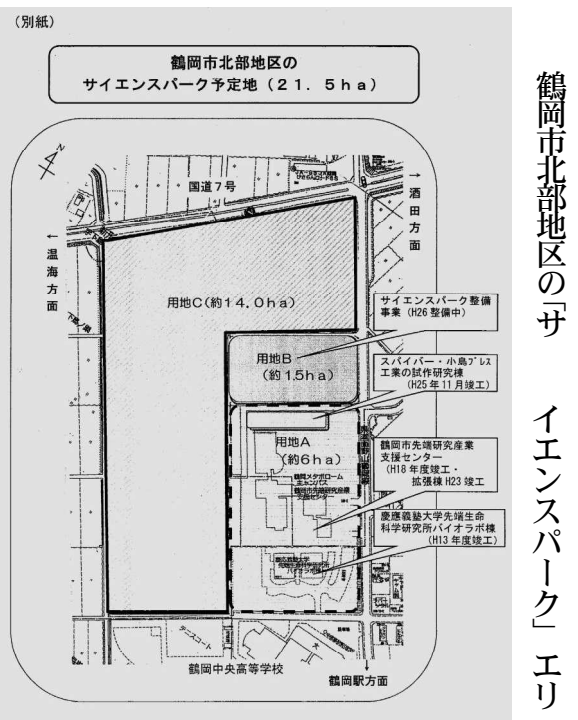
鶴岡(山形県)は江  
戸時代に庄内藩14万石の  
城下町として栄えまし  
た。その中心部から少し  
足を延ばした加茂レイ  
ンボービーチの近くに、ク  
ラゲの展示館として世界  
一の水族館、鶴岡市立加茂  
水族館(愛称「クラゲド  
リーム館」)がリニューアル  
オープンしました。



加茂レインボービーチから望む鶴岡山

クラゲをイメージした  
まっ白な外観は、鶴岡  
山、青い海を背景に美し  
く映えます。

クラゲは、飼育して、入  
り口は暖かなスロー  
プを歩きます。目指すク  
ラゲの展示室は、クラゲ  
リウムは淡水魚や海水  
魚の水槽の奥、照明を落  
とした館内でサムクラ  
ゲ、フウセンクラゲ、ハ  
ナガサクラゲ、ユウレイ  
クラゲ、シロカイウリク  
ラゲ。次々に展開する  
神秘的なクラゲの世界に  
魅了されます。



## 民間主導で国道7号まで開発

### サイエンスパーク

### 鶴岡市北部地区の「サイエンスパーク」エリ

鶴岡市北部地区の「サイエンスパーク」エリは、偶然、3ミほどの生き物を見つけ、なにかも分ならず飼育していたのがサカサクラ

ゲだった。こうして世界で始めてクラゲ飼育に成功したことであつた。それを行ったのが、現同館副館長奥泉和也さんで藤島・須走出身である。庄内トップの集客観光施設に生まれ変わったオンリーワンの水族館と胸を張る村上龍男館長と2人3脚でここまで来たのである。奥泉さんに感謝し今後の更なる研究の発展に期待したい。

## クラゲ乱舞 世界一の加茂水族館 (愛称「クラゲドリーム館」)

赤旗日曜版8月24日号「たび」欄「クラゲの乱舞 世界一」の見出し、6月1日リニユールオールオープンした地元加茂水族館(愛称「クラゲドリーム館」)の紹介である。かつて来場者が年間9万人ほどまで低迷し閉館の危機さえあつたのが、30万人までに躍進したのである。

ア21・5haの開発で、今年度企業向け用地として市が1・5ha購入し、整備を進めていきます。残りの14・0haの農地を、合成クモ系繊維の量産化に向けた民間主導による開発の動きが具体化しています。開発主体は、スパイバー社が出資する「YAMAGATA IDES IGN(株)」(平成26年8月新設)とのこと。遺伝子組み換え生物の大規模生産基地が出

現するのでしようか。民報藤島8月24日号寄稿の本間勇さん「8月15日に思う事」に反響の声がありました。鶴岡市の男性は「じつにしっかりと意見と文章だ」。新婦人の会では「集まりで大きな話題になった」。小学校の先生から「大変つらい体験をされたことを思い、読んで涙が出てきた」など、さらに続編を期待する声も寄せられています。



ドンと鳴った花火だ  
ドンと鳴った花火だ  
クレエだな、空一杯に  
広がった、枝垂れ柳が  
広がったーは、ご存じ  
の花火という唱歌だ。  
▼いつ頃創られた歌な  
んだか、その頃から枝  
垂れ柳状態だったのだ。  
洋画に出て来る花火は  
そのようには見えない。  
日本は、タマヤーカーギ  
ヤーの時代からの技術  
錬磨の結果だろう。  
▼赤川の花火、席があ  
るからとの誘いだ、  
あの音のヒビキが腹に  
応えては若さが持つま  
いと思ひ遠慮した。  
▼でも2階からは大部  
分が見える。遠いから  
当然声は届かないが、  
ズシンと来るものもあ  
る。あれは新しい形だ  
なと思うものもある。  
▼今回は総合司会が前  
代議士の娘さんだとい  
う。色んな思惑のある  
司会者でも31万人と言  
われた見物人は、楽し  
い一夜だったろうか。

▼これはオカシイゼと日本共産党市議団が、多額の補助金を出している市に再考を促す提案をしたとの報道。  
▼心配された天気は良くなつて多くの方々が喜んだが、司会者のことで悪い後味でなければよいのだが。  
▼注文をつけた市議団には、自民党支持者からも賞賛の声が多いとか。

▼合併する前は、藤島でも花火大会はあつたし、寄附金もあつたが、花火と一緒に寄附金も持っていかれた。  
▼企業は多額だからプロگرامに名前が載るのは当然としても、各戸からのものもあるんだということ、大きく書いてもらわないとイケナイゼ、とはある酒席での話であつた。  
▼あの人は結婚したんだからサー。加藤というのはオカシインじゃないの、との声も。  
(石川)